

市民団体の創立から、これまでに至る主な活動の歩み

2004年（平成16年）12月、政治・宗教・思想等の何のバックも持たない一市民団体として「江戸城再建を目指す会（後のNPO法人）」を創立しました。創立総会は、観光業界、都市計画、経営コンサルタント、会社役員等、市民60数名の参加により、理事長に小竹直隆を選任しました。

江戸城再建を目指す会 設立趣意書

「近年、世界各国、各都市は観光立国と魅力ある国づくりに向けて熾烈な競争を繰り広げているが、その中であって東京は国際都市として未だ確固たる地歩を築いているとは言い難い。

その要因の一つは、日本の首都でありながら日本らしさを体現する傑出した歴史文化的遺産が存在しない点にある。かつての都、江戸は世界で最も魅力的なまちの一つと謳われていた。

もし、ここに1657年の明暦の大火により失われた天守や本丸御殿を始め、江戸城の遺構が再建されれば、それは世界に伍して発展する文化観光、国際交流都市東京の形成に寄与するだけでなく、21世紀における日本再生の新しいシンボルにもなり得る、と確信する。」

このような観点から、私たちは再建を具体化するための各種の調査、研究を進めると共に、広く世論を喚起するための様々な活動を展開すべく、市民団体「江戸城再建を目指す会」を立ち上げる。

平成16年12月 江戸城再建を目指す会
理事長小竹直隆



（皇居二重橋を撮影）

2006年（平成18年）NPO法人の認証を東京都知事より受ける

2011年（平成23年）：認定NPO法人の「認定資格」取得

2013年（平成25年、平成26年）：

認定NPO法人総会決議：新事業主体設立に向けた事業検証を開始（第三者機関に委託）
皇居東御苑での天守再建はNPO法人では不可能に近いと結論に達した。

2015年（平成27年）：

認定NPO法人総会決議）皇居東御苑での再建事業は公益財団法人を目指す。

2016年（平成28年）3月認定NPO法人の総会決議：

NPO法人12年の集大成としてより専門的な調査研究を進める為出来るだけ早い段階で一般財団法人を設立し公益法人を目指すことを決議した。同年5月「江戸城天守復元調査研究報告書の完成」検討会を開催し、11月「天守再建と歴史文化ランドデザイン基本構想」策定した。

2017年（平成29年）：認定NPO法人の総会決議

一般財団法人の設立報告並びに「江戸城天守復元調査研究報告書の完成」、及び「天守再建と歴史文化ランドデザイン基本構想」を提言

2017年（平成29年1月）：

一般財団法人「江戸城天守再建・歴史文化まちづくりルネッサンスの会」を設立
特別史跡江戸城跡における天守再建等本格的な学術調査研究を進める為、事業と運動の共創による一体的発展を目指して、前述のNPO法人理事長小竹直隆を始めとするNPO法人役員等により、企業の運用益に寄らない徹底した非営利財団として、清々粛々として活動を開始した。

この間、世界の首都は、歴史と伝統文化による国際競争の激化時代を迎えて、インバウンドの急増や世界遺産登録等のブーム、国内においては、2016年熊本地震により堅牢と云われた熊本城の天守台の石垣が崩壊し内外に衝撃を与えた。

一方、文化財保護法等の改定をはじめとする関連法等の改正が行われた。また、国連は持続可能な開発目標（SDGs）に向けて観光と文化の貢献を強化する等、文化観光立国を取り巻く内外の環境は、著しく変化を続けて現在に至っている。

以上の観点から、特別史跡江戸城跡に存在する台座の上の天守建築は学術的、国際憲章並びに歴史的、文化的等により極めて難題が多く、行政、学識者を含めた広範囲な合意形成は困難であるとの認識から「本丸御殿や城門等江戸城の全体整備構想の策定」を視野に入れた本格的な学術調査研究が必須であることの認識を深め、次のビジョン策定を行った。

参考：江戸城天守台・石垣のこと (https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/04/gozonji_ishigaki20210427.pdf)

江戸城本丸御殿のこと (https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/04/gozonji_honmaru20210426.pdf)

2017年（平成29年10月）「江戸東京歴史文化ルネッサンスビジョン5カ年基本計画（案）」 (https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/04/5kanen_2017.pdf) を策定した。即ち、天守単体の再建から江戸城の全体整備構想策定並びに歴史文化まちづくりへと、新たな事業と運動への構想転回を図ったものである。

2018年（平成31年7月）には「江戸東京歴史文化ルネッサンス5カ年基本計画（案）」を策定、11月には本格的な学術・調査研究を開始すると共に準備会議を設置した。

2019年（平成31年3月）：

近未来の世界遺産並びにSDGs持続可能な観光文化の視点から「歴史風致維持向上のための法律」による江戸城全体整備構想「江戸東京歴史文化ルネッサンス5カ年基本計画（案）」を検証すると同時に、「事業概要書」(https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/2021/03/06_bessatu_jigyogaiyousyo_20191226.pdf)を公表した。

参考：会報誌第4号 (<https://zaidan-edojo.or.jp/activity/kikanshi-php/kikanshi4/>)

2019年（令和元年5月）：理事長特別メッセージを公表

(https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/tokubetusiseki_20210426_20220131.pdf)

「特別史跡・江戸城跡における天守や本丸御殿等の歴史建造物の復元のあり方について」所見を公表した。（天守復元は難題が多く再建は極めて不可能に近い）

2020年（令和2年7月）「2020年 今日的意義の検証」を策定

(<https://zaidan-edojo.or.jp/aboutus/2020konnititekiigi/>)

2020年（令和2年）財団設立3周年記念事業 (<https://zaidan-edojo.or.jp/>)

3月：江戸東京歴史文化ルネッサンス基本計画調査研究委員会・調査研究委員会は、第一線の気鋭の研究者に加えて、日本イコモス国内委員会並びに文化財保存計画協会からアドバイザーを迎えて開催しました。同年10月2年間にわたる基礎調査は終了した。

同年10月：上記メンバーにより「江戸城全体整備構想の策定並びに江戸東京歴史文化まちづくり」をテーマとして、シンポジウム&パネルディスカッションを共催した。

共催者・日本イコモス国内委員会 (<https://icomos-japan.org/>)

（国連教育科学文化機関・ユネスコの諮問機関で世界遺産登録のモニタリング等の活動を行っている。）

同年12月：パンデミックコロナ禍の厳しい社会経済環境の下、次の方針を理事会決定した。

本丸御殿など江戸城全体整備構想の策定の方針は堅持するものの一旦、留保し、人・モノ・資金の体制が整い次第、策定活動を開始する。一方、江戸城全体整備構想策定活動の表裏一体となるテーマとして、江戸東京歴史文化資源を活かした観光まちづくり（プラットフォーム）の形成に向けた、取り組みを推進する。

2021年（令和3年4月）

「江戸東京歴史文化資源等・プラットフォーム」(<https://zaidan-edojo.or.jp/gallery/>)をホームページに新設した。

財団設立3周年記念行事江戸東京歴史文化ルネッサンス調査研究委員会の成果である600余りの歴史文化資源から歴史建造物等を順次公開していく、と同時に、プラットフォームの基盤整備を推進する。

同年7月：江戸東京歴史文化ルネッサンス基本計画調査研究委員会・調査研究委員会報告書の策定

同年11月：「江戸城全体整備構想策定並びに江戸東京歴史文化資源を活かした観光まちづくり」をテーマとするVISION2032「提言書」(<https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/vision2032.pdf>)を策定した。

これまでの運動の成果及び調査研究委員会の答申などを受けて、関連する自治体並びに行政及び関係者、関係機関等に対する提言書活動を推進する。

同年12月：これまでの運動並びに調査研究の成果を踏まえて、愈々、提言活動をスタートした。

特別史跡江戸城跡を背景に、まずは、千代田区長を表敬訪問し、提言書による提言を行う等、**提言活動の取り組み元年**となった。 (<https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/aisatu20220131.pdf>)



左から 齋藤副理事長 樋口千代田区長 小竹理事長 細内理事 内田専務理事

2022年（令和4年）

12月：私達の活動の全体像を改めて確認一会員、市民と有識者との対話を核として、関係機関との合意形成を大切にしながら、ビジョンの実現に取り組む — 会報誌15号

VISION2032「提言書」による提言活動の「第一次提言活動報告」を取りまとめた。

(<https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/edotokyohistoryandculturecorridorreport20210510.pdf>)

2023年（令和5年）

VISION2032の検証を進め、「江戸城全体計画の策定及び公益認定取得を目指す」取組を推進することを決定した。

リーフレット「よみがえれ江戸城」(<https://zaidan-edojo.or.jp/uploads/yomigaere.pdf>)

2024年（令和6年）

東京都の2024年中長期計画「江戸城址の世界遺産登録を目指す」及び文化財保護法「大綱」の策定を視野にVISION2032「提言書」の検証を行う。

2024年12月1日

一財)江戸東京歴史文化ネッサンスの代表理事会長である小竹直隆さんがご逝去されました。

小竹直隆さんのご逝去に対し哀悼の意を表しますと共に生前のご貢献に対し心より謹んで敬意と感謝を申し上げます。

2004年市民団体江戸城再建目指す会(後のNPO法人)を創立し以来、様々な困難を乗り越えて今日に至る迄の20年余り生涯・ライフワークとして「世界遺産を目指す江戸城再生」へと着実に成果を上げて運動を牽引してまいりました。この間、会員、市民、関係者等多くの「みなさまから戴きましたご厚情に深く感謝し御礼を申し上げます。

2025年(令和7年4月好日)
一般財団法人)江戸東京歴史文化ネッサンス

*詳細は、会報誌第20号・特別記念号をご参照下さい。

以 上